



### 同徳殿

同徳殿は中日両国の建築様式をもった建物で、1938年末に落成された。溥儀が「日滿一徳一心」に基づいて命名したのである。殿の屋上にある黄色い瑠璃瓦の瓦当と軒端には焼き付けた「一徳」、「一心」四文字がある。この殿は溥儀の執務と、娯楽、生活用のために建設されたが、建設後、溥儀は日本人が建物内に盗聴器を仕組んだ疑いを持ったため始終正式に使用しなかった。一階は政治と娯楽を行う場所で、広間、叩拝間、候見室、中国間、ピアノ室、ビリヤード室、日本間、映画ホールなどがある。二階は溥儀と婉容の寝室と設計されたが、1943年李玉琴が入廷後、溥儀から「福貴人」に封ぜられ、婉容のために設計された寝室を使用した後、その殿の中に活気がすこし生まれてきた。



### 東御花園

東御花園は、1938年に造られたものである。日本の園芸家佐藤昌の設計で、中国北方の風格と日本の風格が一つに融合した御苑であり、地面積は約1万平方メートルで、偽満州国皇宮の中の一番大きい御苑である。御苑の中は動と静が相補い、一歩進むごとにその景色がかわり、石道が迂回し、木と生垣が入れ混じり、築山と水流もあいとし、林の間に鳥が囀る。福貴人李玉琴がよくここで楽しんだ。



### 緝熙楼

緝熙楼は、寝宮とも呼ぶ。20世紀の初期に建てられた偽満皇宮の主な建築物の一つである。元は吉黒権運局の本部であったが、1932年溥儀が「執政」になったあと、ここを宮殿とした。「詩経・大雅・文王」の「于、緝熙にして、敬止せり」（文王はひたすら徳に勤め、またみずから敬しんだ）という句の意味を取り、片時も清王朝の祖業の回復を忘れずという意味に因んでこの建物を「緝熙楼」と命名した。偽満州国時代、溥儀及び皇后婉容、妃譚玉齡たちがここに住んでいた。



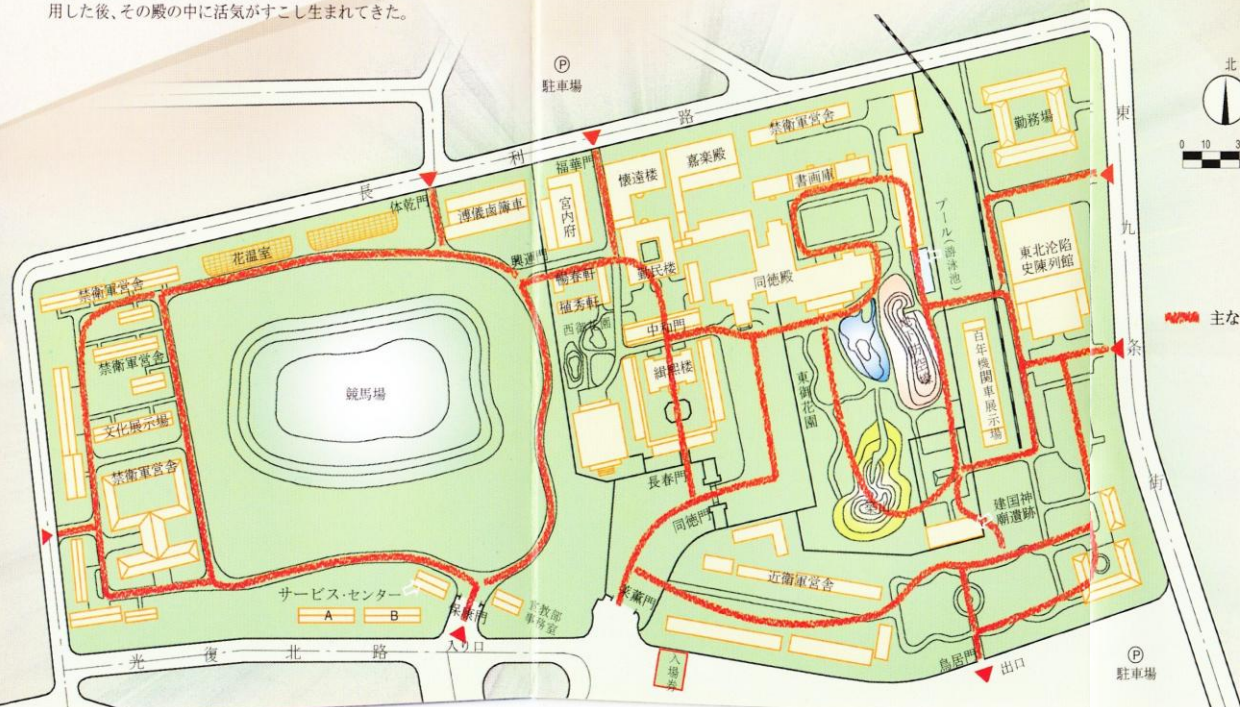
### 東北淪陥史陳列館



### 勤務前の訓練、管理強化、サービス規範化、

### 勤民楼

勤民楼は、偽満州国皇宮の主な建築物の一つであり、20世紀の初期に建てられたものである。中華民国の初期、この建築物は吉黒権運局（吉林・黒竜地方の塩の専売の役所）の本部であった。1932年、溥儀は偽満州国執政に就任した後、清王朝回復の志を示すために、「天を敬い祖に則り、政に勤め民を愛す」という清王朝の家訓により、「勤民」という二文字で命名し、ここを政務処理、式典挙行、来賓接待、賜宴、祭祀従事などの場所とした。



### 主な観光場所

- 同徳殿復原陳列
- 緝熙楼復原陳列
- 勤民楼復原陳列
- 宮内府復原陳列
- 東御花園
- 西御花園
- 「皇帝から公民へ」展示
- 「偽満州国政権の高官」の展示
- 「偽満州国宮廷の官吏」の展示
- 日本憲兵室復原陳列
- 東北淪陥史陳列館